

# カノラータ<sup>🎻</sup>オーケストラ

第17回定期演奏会 Canorata Orchestra  
The 17th Subscription Concert

指揮：鈴木竜哉（カノラータ・オーケストラ常任指揮者）

コンサートガイドブック —コンサートをお楽しみいただくために—

名曲が心のひだに触れるとき、その凄みを知る

2018

7/15<sup>日</sup> 開場：13時30分 開演：14時00分  
カノラホール 岡谷市文化会館 大ホール

主催：カノラータ・オーケストラ、カノラホール（公益財団法人おかや文化振興事業団）

## カノラータ・オーケストラ

2002年に設立された、岡谷市を中心に活動するアマチュアオーケストラ。オーケストラ名は、カノラホールの“カノラ”と、イタリア語で「仲間」を意味する“カメラータ”を合わせ「カノラータ・オーケストラ」とした。主な活動は、毎年夏の定期演奏会やウインターコンサートを開催し日頃の練習成果を発表している。また、岡谷市教育委員会主催の「ホリディスクエアコンサート」、岡谷市民音楽祭、諏訪湖ハイツ（岡谷市）における「あじさいコンサート」等に出演し、地域に根付いた活動を積極的に展開している。団員は、岡谷市をはじめ、諏訪・松本・伊那などから集まり、日々練習に励んでいる。

## ■コンサートQ&A

「クラシックのコンサートは敷居が高いのでは？」と心配されている方のためにカノラータ・オーケストラからご提案です。これを読めばクラシックのコンサートがグッと近くなるはず！ 案外、気楽に楽しめますよ！

Q: 服装はどうしよう？

A: 何でもOKです！ Tシャツ、ジーパン、着物などお客様のお好みの服装でお出かけください。

Q: CDで聴けばいいんじゃない？

A: 県内有数の響きの良さを誇るカノラホール。この響きをダイレクトに体感できるのがオーケストラの演奏です。演奏家ひとりひとりが奏でる楽器の音色に耳を傾け、全身で音楽を感じてください。心ふるえる体験が待っています。

Q: 子ども連れでもいいの？

A: 「子どもと音楽を楽しみたい」、「子どもに音楽を聞かせたい」そうした思いをお持ちの親御さんのためにもカノラータ・オーケストラは、未就学児のお子さんもお入りいただけるようになっています。もし、お子さんがぐずったり、泣き出してしまったら静かに場内から出れば大丈夫。親子で鑑賞いただくための母子室もごさいます。カノラータの演奏を聴いて未来の団員やファンが誕生すればこんな嬉しいことはありません！

Q: 拍手のタイミングは？

A: 演奏が終わって指揮者の手が下りたのを合図に拍手をいただきます。しかし、交響曲のように4つの楽章で構成された音楽は、第4楽章が終わったところで拍手するのがマナーとされています。不安な方は周囲の方に合わせてみましょう。

## ■お問い合わせ

カノラータ・オーケストラ事務局（カノラホール内）

〒394-0029 長野県岡谷市幸町8番1号

TEL.0266-24-1300 FAX.0266-24-1412 <http://canorata.net/>

Facebook <https://ja-jp.facebook.com/Canorata/>

# 鈴木竜哉 & カノラータによる初のロシア音楽！ 名曲の凄みを届ける！

Canorata Orchestra The 17th Subscription Concert

カノラータ・オーケストラと鈴木竜哉がコンビを組んで今年で6年目。今夏、ついに彼らはロシア音楽の名曲に挑戦します。本紙は、演奏作品の聴き所や成立背景をまとめました。ご一読いただき、コンサートに興味を持っていただければ幸いです。

鮮烈なるオー

ケストラの響き

コンサートは、ロシア音楽の父と称されるミハイル・グリンカの歌劇《ルスランとリュドミラ》序曲で華々しく始まります。物語は、婚礼の夜に悪魔に連れ去られた王女リュドミラを王子ルスランが幾多の困難を乗り越えて救出し、ふたりはめでたく結ばれるという筋書きです。

序曲は、空想的な物語にふさわしく躍動感に満ちています。一気に呵成に突き進む音楽と民謡のような素朴なメロディとの対比にもご注目ください。オーケストラの糸乱れぬ演奏に圧倒されますよ！

## 喜びも悲しみもすべて音に託して

今回の演奏会における最大の注目作が、シテインベルク（1883～1946）がオーケストラアレンジを施したバッハの《シャコンヌ》ではないでしょうか。

ヴァイオリン一本で演奏するために書かれたバッハの原曲を後世の作曲家たちは様々な演奏形態に編曲してきました。なかでも、フェルッチョ・ブゾーニ（1866～1924）がピアノ用にアレンジしたバージョンは有名で、原曲には無い音を加え肉厚なサウンドと超絶技巧が愉しめる作品へと進化させました。そして、20世紀初頭にロシアのシテインベルクがブゾーニ版をオーケストラアレンジしたことで音の厚みや情感に訴える力は一層増強されました。

そもそもシャコンヌとは、古い舞踊の様式を指しますが、後に基本となる和声進行を幾度も繰り返しながら変奏が行われるという形式が定着しました。しかし、バッハの《シャコンヌ》は、単なるダンス音楽や変奏曲の域を超えて深遠な世界へ私たちを誘います。ブゾーニとシテインベルクによって深みを増した《シャコンヌ》。今回、長野初演となるシテインベルク版の演奏に否応にも期待は高まります。

深遠なる音楽世界

## 単なる名曲コンサートで終わらせない

名曲の凄み

メインプログラムは、チャイコフスキーの交響曲第5番です。伝統的な交響曲の形式と情感豊かなメロディが織りなす音楽は、聞き手の琴線に触れ大きな感動の渦へと引きずり込みます。

親しみやすいメロディとそれらを取り巻くハーモニーが否応にも聞き手の心に揺さぶりをかけてくる本作は、単に名曲と括られてしまいがちですが、注意して聴くと細部に至るまで隙の無い音楽作りがなされており、チャイコフスキーの円熟の筆致が光る傑作です。

悠揚たる歩みを聴く

1888年、チャイコフスキーは創作の筆を一気に進め、本作を完成させました。4つの楽章で構成された音楽は、全楽章に共通したモチーフを登場させているのが特徴的です。楽章ごとに表情が変化するモチーフは、最終楽章では悠揚たる歩みを想起させる姿に変化して勇ましく演奏されます。また、メロディの美しさが一際輝く第2楽章にもご期待ください。音が心に作用することの証左がこの曲に込められています。

### ■プログラム

グリンカ：歌劇《ルスランとリュドミラ》序曲

バッハ＝ブゾーニ：シャコンヌ

～無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番ニ短調より～  
(編曲：シテインベルク 補筆：鈴木竜哉)

チャイコフスキー：交響曲第5番ホ短調 Op.64

### ▼INFORMATION▼

【公演日】2018年7月15日(日) 開場：13時30分 開演：14時 【会場】カノラホール 大ホール

【料金】全席自由1,000円 小中高生500円 未就学児無料

【お問合せ】カノラータ・オーケストラ事務局(カノラホール内) TEL.0266-24-1300